

# 技術・家庭科学習指導案

学 校： 岐阜市立長良中学校

場 所： 彩りの間

学 級： 2年2組

授業者： 西 杏子

## 1 題材名

家庭分野 D 身近な消費生活と環境「めざせ！かしこい消費者」

## 2 題材のとらえ

学習指導要領における家庭分野「D 身近な消費生活と環境」では、「消費や環境に関する実践的・体験的な学習活動を通して、消費生活と環境についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、消費者としての自覚を高め、身近な消費生活の視点から持続可能な社会を展望して、環境に配慮した生活を主体的に営む能力と態度を育てること」を目標としている。生徒たちは小学校で、収入と支出など、家庭におけるお金の流れについて理解するとともに、適切な買い物の仕方についての学習を行っている。それを受けて本校でも、内容 B では「生鮮食品の選び方」、内容 C では「日常着の選択と購入」など、他の内容と関わらせながら、商品の選択の仕方について繰り返し指導を行っている。

それを踏まえ、本題材では、今までの自分の消費行動について見つめ直し、課題を明らかにした上で消費者の一人としての自覚をもち、主体的に課題を解決して持続可能な社会を築いていこうとする力を身に付けることを目的としている。そのため、これまで学習してきた知識・技能を活用するとともに、身近な消費生活だけでなく、環境面についても考えられるようにしていきたいと考えた。生徒たちが「協力・協働」「健康・快適・安全」「持続可能な社会の構築・継承」などの視点から、深い学びを通して「題材のつきたい力」を身に付け、「生活を工夫し創造する力」を育みたいと考えた。そこで、「題材のつきたい力」を以下のように設定した。

「題材のつきたい力」

消費者の一人としての自覚をもち、持続可能な社会の構築に向け、身近な消費生活と環境についての課題を自ら解決しようとする力

## 3 本時の指導

生徒たちは、第1時において、解決していくべき生活の中の諸問題を見つけている。本時では、その中の一つとして、買い物によるトラブルの事例を取り上げながら、その解決方法を考えることを通して、消費者の権利と責任について理解することを目的としている。そこで、「本時のねらい」を次のように設定した。

<本時のねらい>

購入した商品に欠陥がある場合にどのように行動するかを考える活動を通して、消費者には権利が保証されているだけでなく、果たすべき責任があることや、消費者の行動により商品が改善され、より安全で安心して生活できることを理解することができる。

本時の導入において、買い物で失敗したときにどのような行動をとるかを考える。その際、特に買った商品が安価である場合「仕方ない」とあきらめがちである状況であることを生徒に自覚させ、「このままでよいのだろうか。」という意識に立たせたい。そして、「消費者の一人として、何かできることはないか。」と問いかけることで、主体的に課題を解決しようとする子どもたちの姿を生み出し、本時の課題を提示したいと考えた。本時の課題を以下に示す。

＜本時の課題＞

購入した商品に問題があると分かった時、私たちはどのように行動していくとよいのだろうか。

課題提示の後、購入した商品に問題があった事例を取り上げ、その後どのような行動をとるのかを理由とともに考えていく。それらを交流する中で、生徒たちの見方・考え方を働かせ、消費者の一人としての在り方について考えを深めていきたいと考えた。そして、生徒たちが考えた行動と、消費者の「8つの権利」と「5つの責任」とを結び付けることで、消費生活における知識と技能を身に付け、消費者の一人として主体的に行動していこうとする生徒の姿を引き出していきたいと考えた。

#### 4 生徒の実態

「題材のつけたい力」を確実に身に付けるために、生徒たちの消費生活における実態を把握するため、題材のはじめにアンケートを実施した。また、アンケートを行うことで、生徒の「自らの消費生活における願い」を明らかにした。以下は、Aさんの願いである。

僕は、店に並んでいる商品を見たときに「カッコいいな。」と思ってつい買ってしまふことがあります。また、シャーペンや消しゴムなどを買っても、すぐになくしてしまい、同じものをまた買ったという経験があります。物やお金を大事にして生活できる人になりたいです。

Aさんは、「経済」の視点から、自分の課題を明らかにし、改善していきたいと願っている。しかし、自分がとっている消費行動が、身近な社会や環境に影響を及ぼしているということには考えが至っていないことが明らかになった。

また、アンケート結果からも、「買い物をするときに、どのようなことに気を付けるとよいか。」という質問に対して、「価格」や「デザイン」と同等に「環境への影響」の数値が高いことがわかった。しかし、「どんなことに気を付けて買い物をしているか。」という質問について、「価格」や「デザイン」に気を付けている子が多いのに対し、「環境への影響」について気を付けている子は少ないことから、生徒の意識として、「環境への影響」を考えることが大切であることを理解しているが、実際に行動に移すことができていないことが明らかになった。

そこで、生徒たちによく考えて商品を購入したり、自らの消費生活が社会や環境に与える影響についても考え、それらに配慮した生活をしたりすることができる力を付けていきたいと考えた。また、通信販売の利用について、約半数の生徒の家庭でインターネットなどの通信販売を利用し、買い物をしていることがわかった。インターネット販売に伴うトラブルが増加している近年、中学生が被害に遭う事例もある。そこで、トラブルに遭ったときによりよい行動をとることができる力も付けていきたいと考えた。

#### 5 研究主題との関わり

##### (2) 主体的・対話的で深い学びを実現する単位時間の学習過程の工夫

##### ① 見方・考え方を働かせるための工夫

課題提示の後、購入した商品に問題があった事例を取り上げ、その後どのような行動をとっていくとよいのかを考えていくことで、生徒たちの見方・考え方を広げ深め、消費生活における知識と技能を身に付けていきたいと考えた。そこで、生徒たちが本時働かせるであろう見方・考え方をまとめた机列表を作成し、個に応じた指導を行っていききたいと考えた。(図表1)

2年1組 機列表

本時に働かせるであろうB男の視点の具体【品質】  
 ・やっぱり、きちんとインクが出て書きやすいペンがいい。使えないインクがあるペンは、すっと使おうとは思わないから、交換してもらうのがよいと思う。  
 【品質】を大切にするB男の考えを深める手立て  
 問いかけ：「自分が欲しいと思うものを買うことには、どのようなよさがあるか。」  
 【品質】【経済】

本時に働かせるであろうC子の視点の具体【協力】  
 ・Aさん以外にも、同じように困っている人がいるかもしれない。そういう人をこれ以上つらくならないようにするためにも、返品をして、改善してもらうのがよいと思う。  
 【協力】を大切にするC子の考えを深める手立て  
 問いかけ：「どうして返品することが、他の人を守ることにつながるのか。」  
 【協力】【安全】【経済】【品質】

例えば、「品質」を大切にするB男は、「や

【図表1】 机列表を基にした個に応じた指導

ぱり、きちんとインクが出て書きやすいペンがいい。使えないインクがあるペンは、ずっと使おうとは思わないから、交換してもらうのがよいと思う。」と考えることが予想される。そこで、「自分が欲しいと思うものを買うことには、どのようなよさがあるか。」と問うことによって、より自分が欲しいと思うものを求めることが、その商品を長く使うことにつながることや、結果として経済的にも安くすることができることに気付かせていく。一方、「他者との協力」を大切にしている C 子は、「A さん以外にも、同じように困っている人がいるかもしれない。そういう人をこれ以上つくらないようにするためにも、返品をして、改善してもらおうようにするのがよいと思う。」と考えると予想される。そこで、「どうして返品することが、他の人を守ることににつながるのか。」と問うことで、その業者が改善すべきことを具体的にできることや、不満の声が多数になったときに、社会全体を動かす力になることなどに気付かせ、自ら行動することの大切さについて考えられるようにしていきたいと考えた。

全体交流では、個人追究で気付いたことを基に自分の考えを発表する。ここで、一人一人がねらいを達成できるよう、まず、「経済」を大切に考える A 子を指名し、位置付ける。次に「品質」を大切にしている B 男を指名し、位置付ける。さらに、「協力」を大切にしている C 子を指名し、位置付ける。この C 子の考えに触れた A 子や B 男に、「C 子の発言を聞いてどう思うか。」と問いかけることで、自分のことだけを考えるのではなく、他者や身近な社会のことを考えて行動することの大切さに気付かせたいと考えた。さらにその後、別の事例を基にして「協力」を大切に考えていた D 男を指名し、位置付けることで、行動の仕方も様々であることに気付かせ、思考を深めていきたいと考えた。このように、消費者の一人として、自分の行動が周りの社会に影響を及ぼしていくという自覚をもち、主体的に行動することの大切さに気付かせ、消費者の権利と責任について理解する時間に向かえるようにしたいと考えた。

## ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学び方の工夫

生徒たちが主体的に学習を進めるためには、一人一人の発言を認め合い、生徒たち同士が活動しようとする意識を醸成することが大切である。そのために、単に考えを述べるだけでなく、自分の生活とつなげた発言や、仲間の意見とつないだ発言をすることを大切にしている。本時では、家庭での通信販売の利用についてアンケートをとり、身近な大人の意見を聞く機会を設けるなどして、生徒たちがより身近な問題として捉え、課題を改善していけるよう工夫した。

また、生徒たち同士のよりよい関わりを生み出すために、学習形態の工夫を行っている。そこで展開される対話的な学びでこそ、より質の高い学びが実現できると考えている。本時では、個人追究を行う際、生活班を基本としたグループで意見を交流し合うことができるようにする。仲間の意見なども参考にしながら、よりよい方法を追究することができるようにしていきたい。